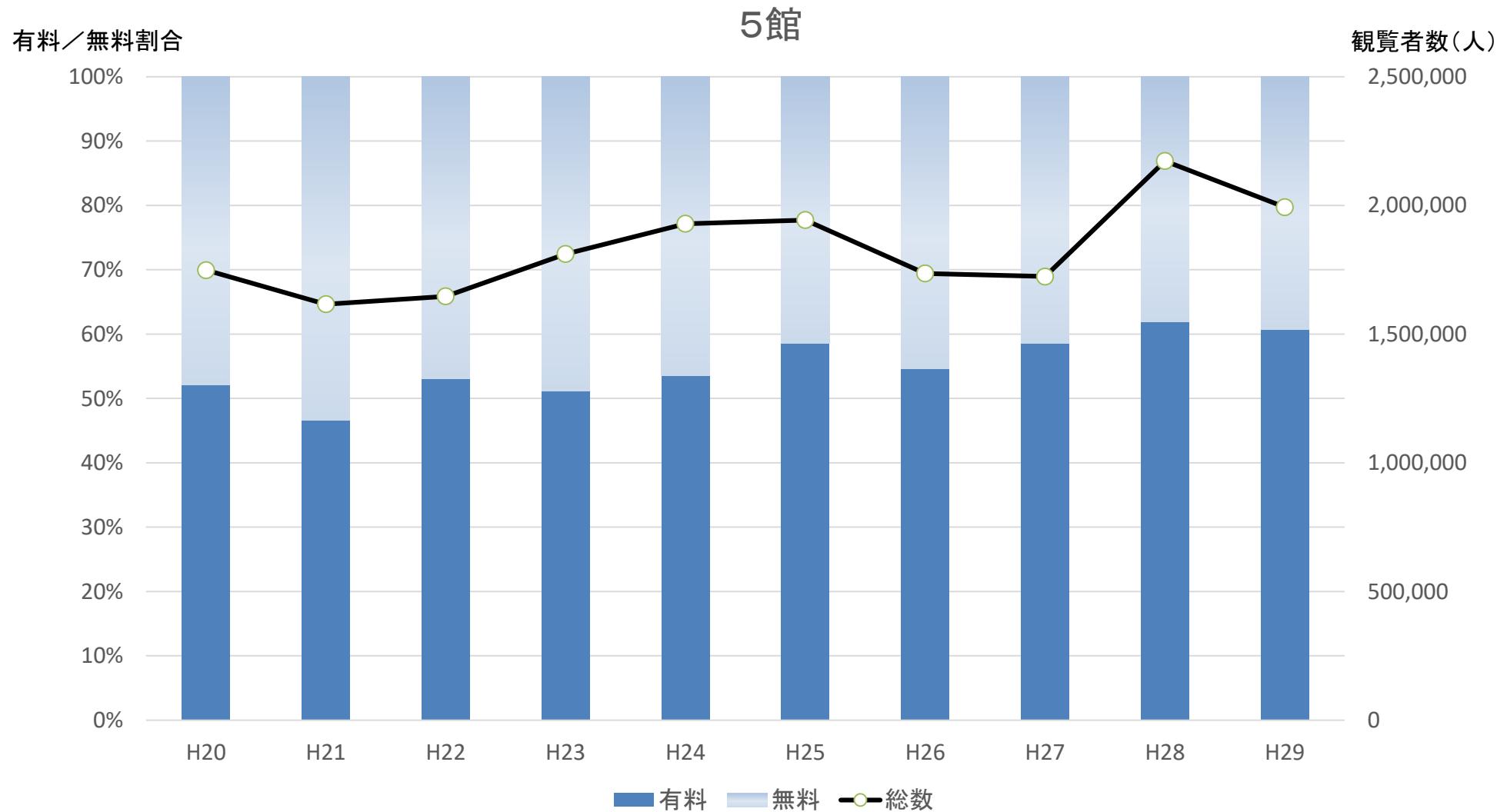


観覧者動向について

～過去10年間の展示観覧者総数と有料・無料割合の推移～

観覧者の動向 ~① 5館 (総数) の変遷~

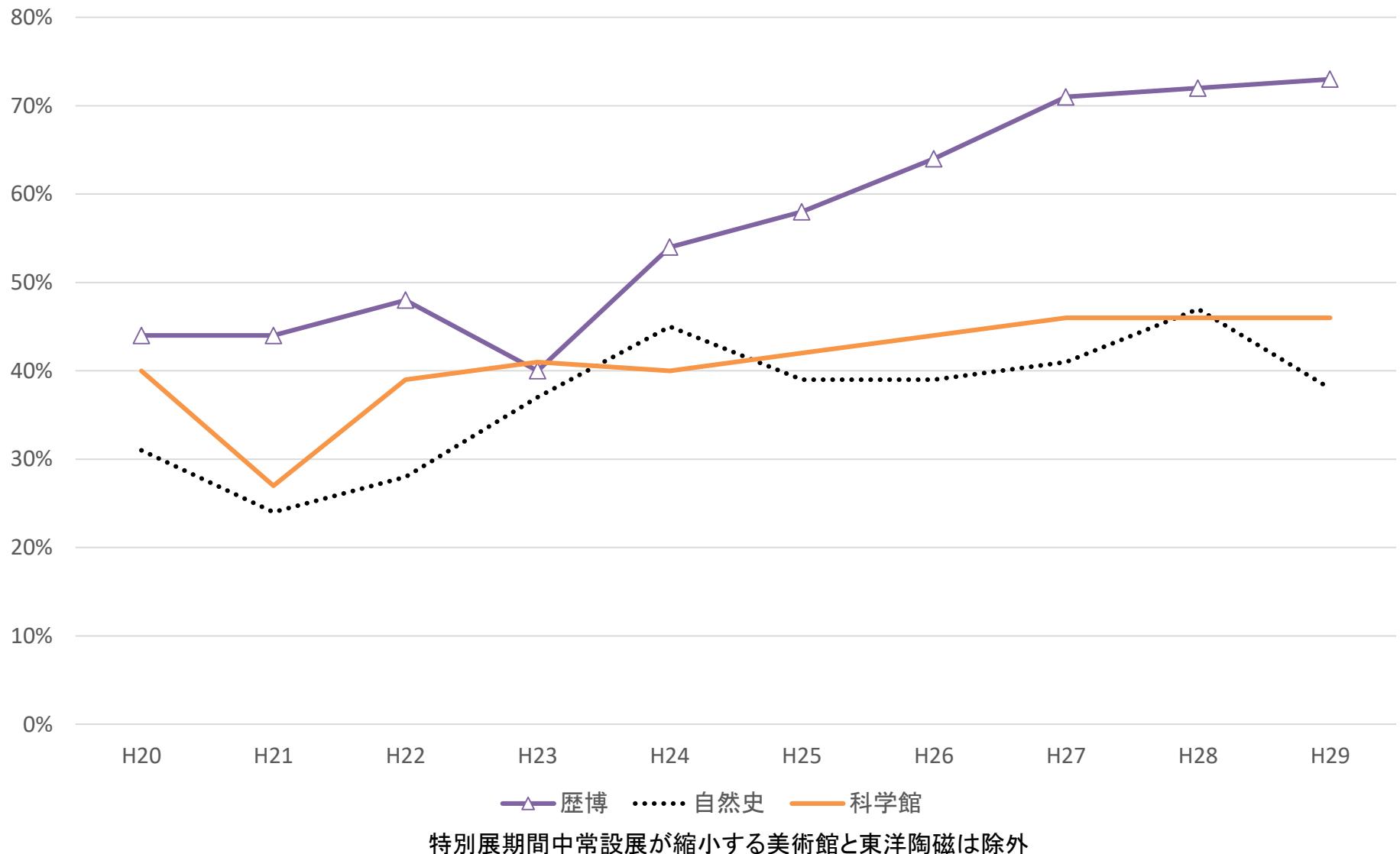
- 5館の常設展および特別展の観覧者総数(折れ線グラフ)は漸増傾向にある(※)
- 常設展示におけるインバウンド効果もあり、有料率も増加傾向になる



(※)ただし、美術館の地下展示室利用者や展示以外の施設利用者は含まない

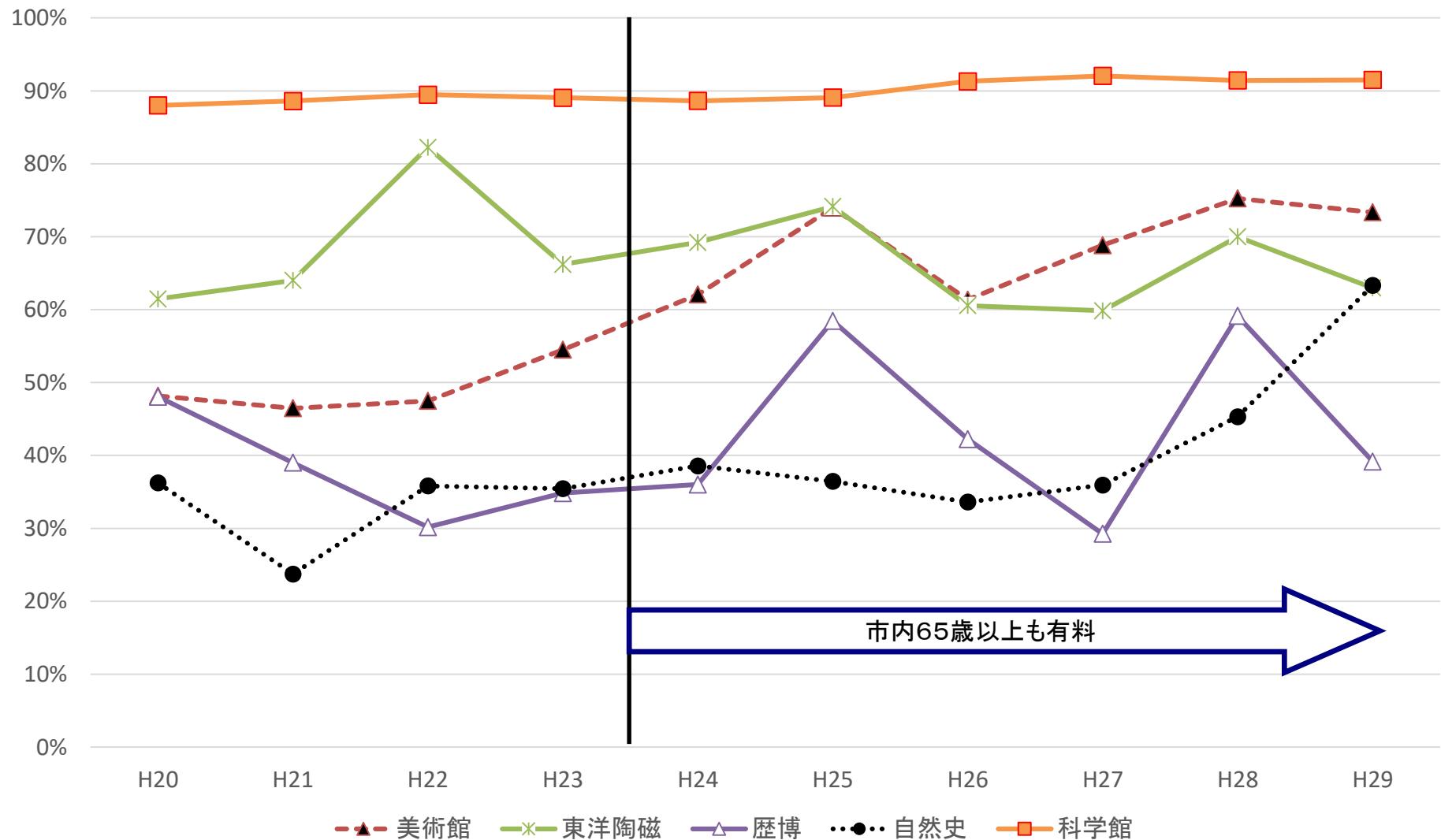
観覧者の動向 ~②常設展有料率の変遷~

- 歴史博物館では、H24年度以降、インバウンド効果で有料率が上昇するが、最近は横ばい気味
- 自然史や科学館は漸増するも50%には届かない



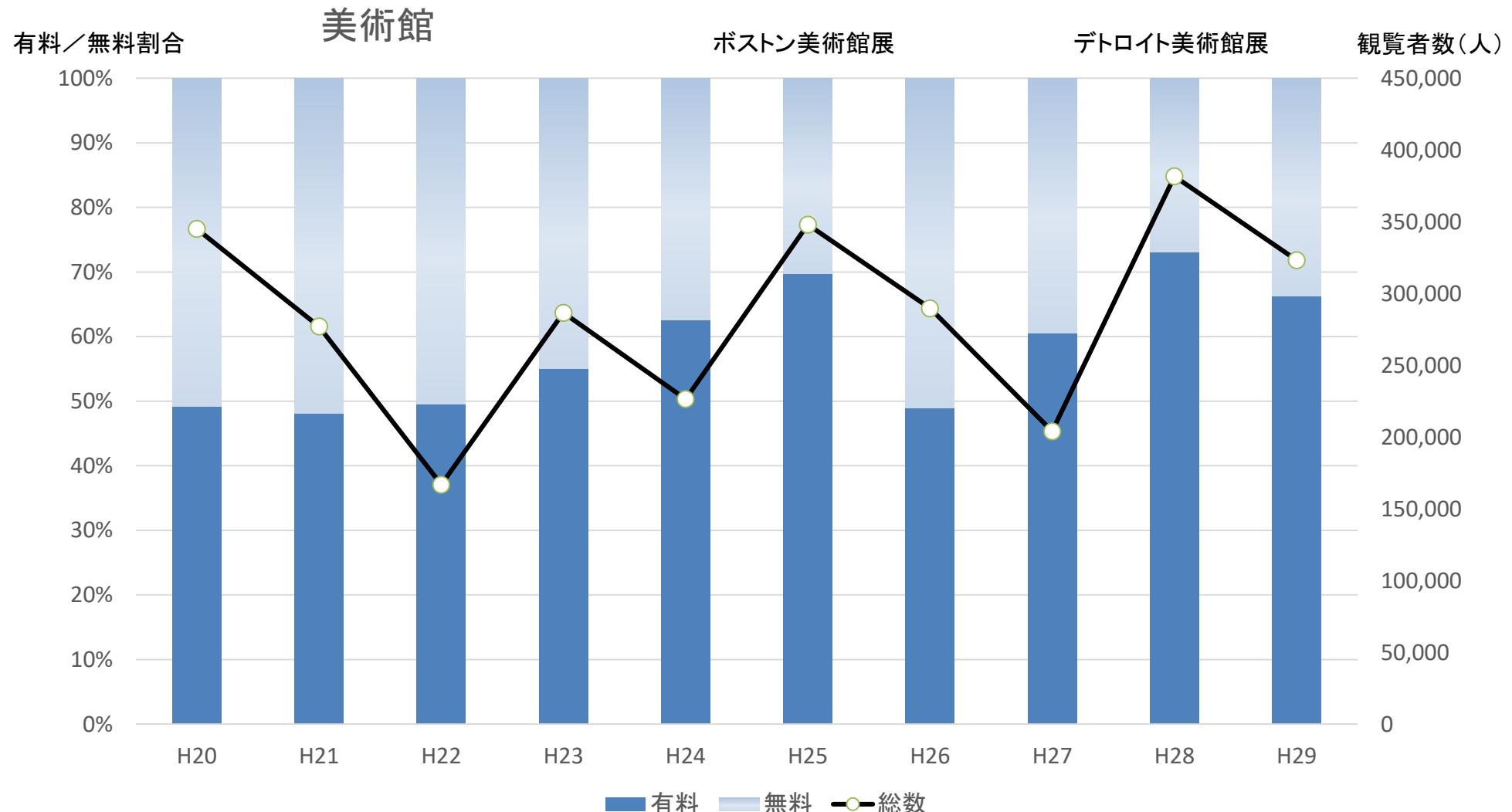
観覧者の動向 ~③特別展有料率の変遷~

- 平成24年度(縦線)以降、一部の特別展で市内在住高齢者も有料化したため、美術館をはじめ全体の有料率は漸増
- 科学館のプラネタリウムの有料率は、こども(3歳以上)が課金対象のため、90%前後の高い割合を維持



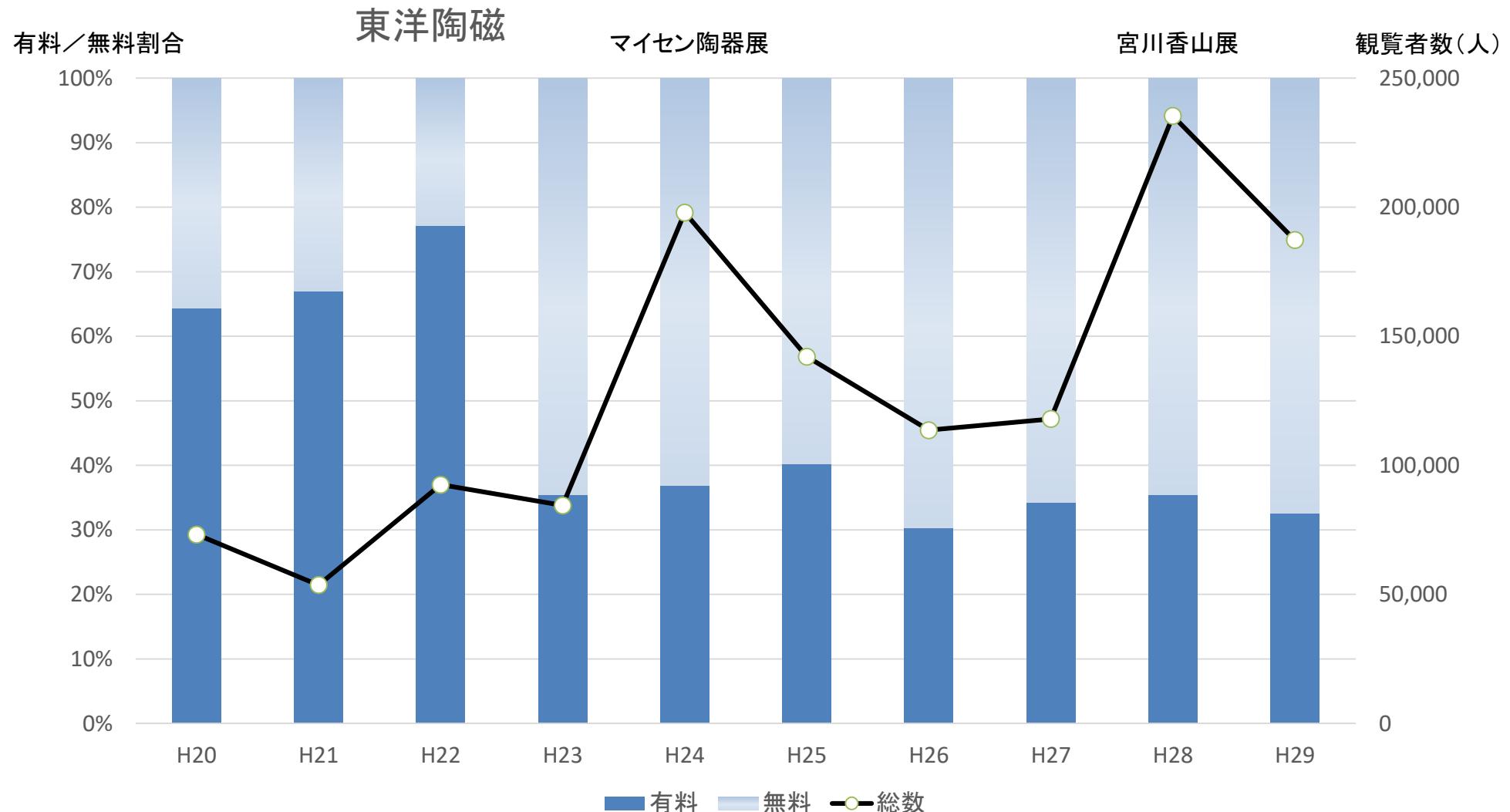
観覧者の動向 ~④美術館~

- 特別展が中心の美術館では、年毎の総観覧者数(折れ線)の増減が激しい
- H24年度以降、市内高齢者の一部有料化に伴い、観覧者数に比例して有料率も高い傾向(H25・H28)



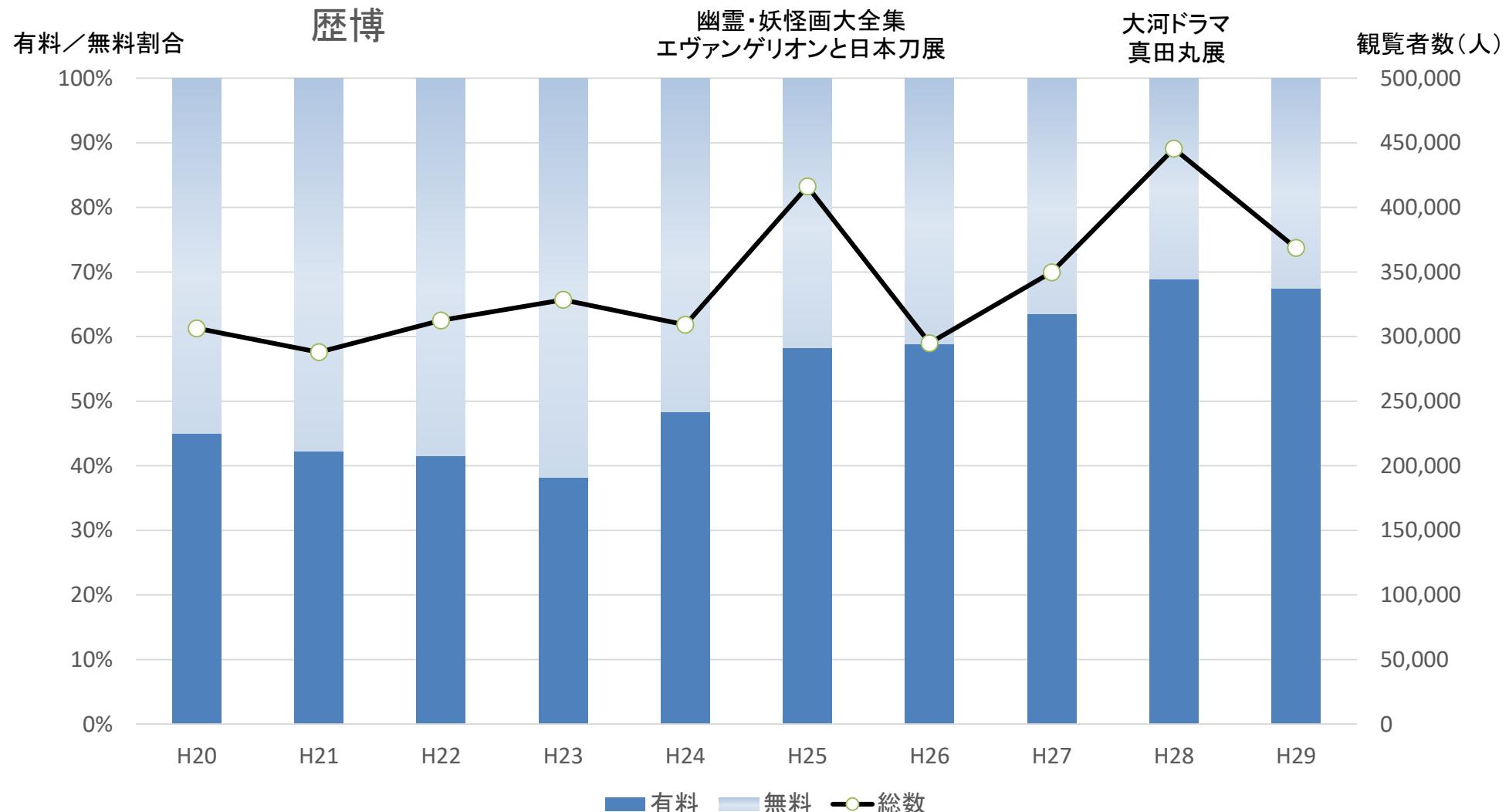
観覧者の動向 ~⑤東洋陶磁~

- H23以降の有料率の低下は、特別展の観覧者を、同時に常設展の「無料」観覧者として扱ったため
- 特別展が中心であるが、その有料率は60~80%と高率で推移(P3)



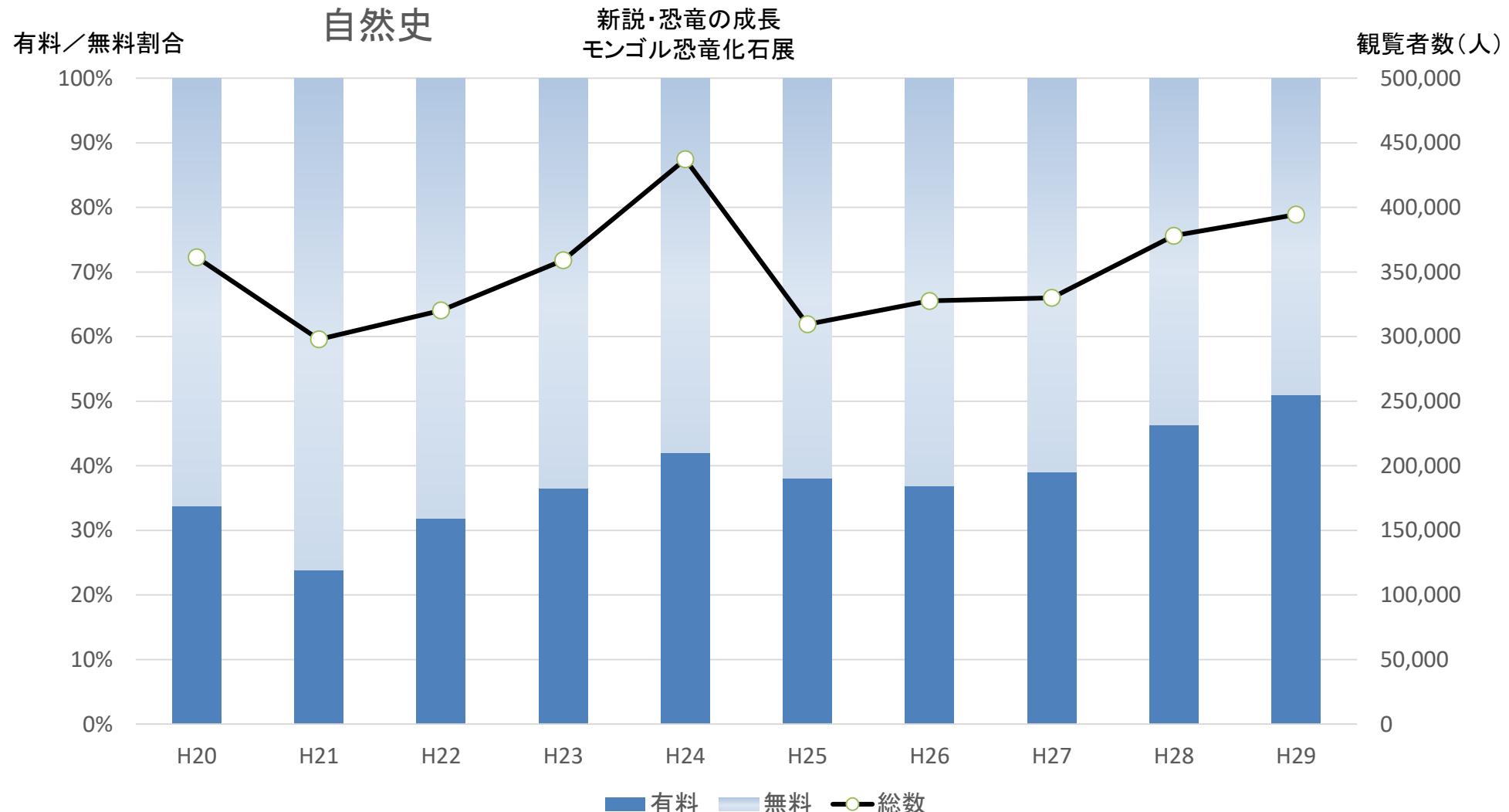
観覧者の動向 ~⑥歴史博物館~

- 総観覧者数(常設+特別)は、特別展の結果に左右され、年毎の変動が大きい
- 逆に、H24年度以降はインバウンド効果による常設展観覧者数の増加に支えられ、有料率は順調に上昇



観覧者の動向 ~⑦自然史博物館~

- 総観覧者数(常設+特別)は、特別展の結果に左右され、年毎の変動が大きい
- 中学生以下の利用が多く、有料率は他館と比べて低いものの、H22年度以降、徐々に上昇しH29は約50%



観覧者の動向 ~⑧科学館~

- 他施設に比べ、安定的な総観覧者数を維持しており、H25年度以降も、総観覧者数は横ばい(71~72万人)を保つ
- プラネタリウムの有料率(90%前後)に支えられ、常設展を含めた全体有料率も、H21年度を除き、60~70%を維持

